

若年層を中心とした奥会津の地域振興

—こころのふるさと奥会津に若者を—

A2201607 小野 真生 A2201612 佐藤 のど佳

A2201613 佐藤 美咲 A2201626 丸山 佳純

研究の背景

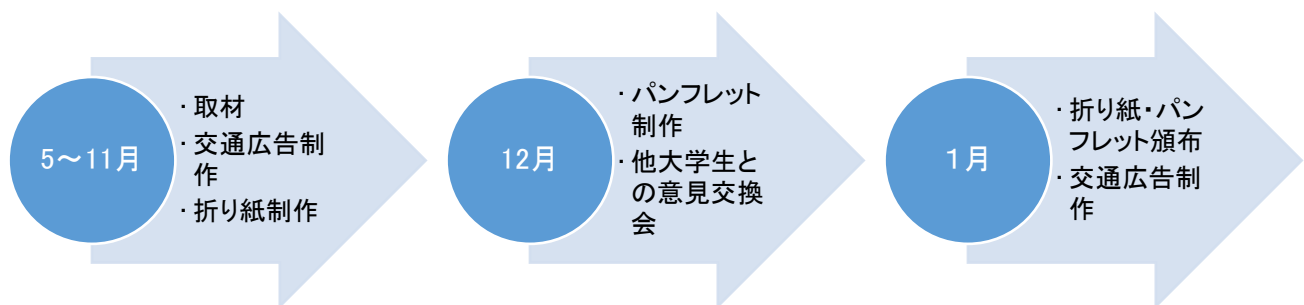
今年度只見線の完全復旧が決定した。そのため鉄道で奥会津を訪れる観光客が増える兆しが見えた。しかし、観光客増加だけでは一時的な誘客に過ぎず、奥会津の人口減少や高齢化の問題は解決しない。現在の奥会津では若者の減少に伴って、高齢化も著しくなっている。奥会津ではイベント活動などによって社会問題を解決しようと試みているが、それは一時的な効果にしかならず根本的な解決には至っていない。今まで私達が奥会津取材していく中でわかったのは、移住者による経済効果が大きいことだ。また、比較的若者とされる方たちが移住していることを知り、移住者が奥会津の問題を解決する糸口なのではないかと考えた。

研究の目的

奥会津の問題を解決するとともに、移住者に奥会津を認知してもらうことを目的とする。そこで私たちはグラフィックデザインを通して、移住者または興味を持っている人に奥会津により興味を持ってもらえるものを制作していきたいと考えた。

研究のプロセス

移住者が奥会津の問題を解決するきっかけだと考え、移住者が興味を持ちそうなところを中心に取材を行った。また、都内大学生と共同でスタディーツアーや意見交換会などを行い、奥会津地域以外からの視点から見た意見を得ることができた。



成果物(完成作品)

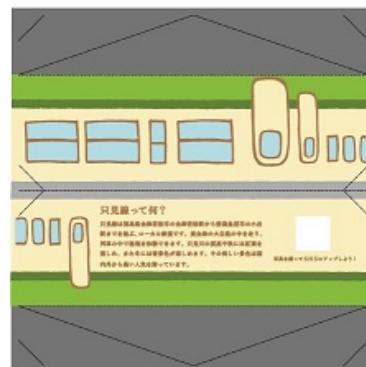
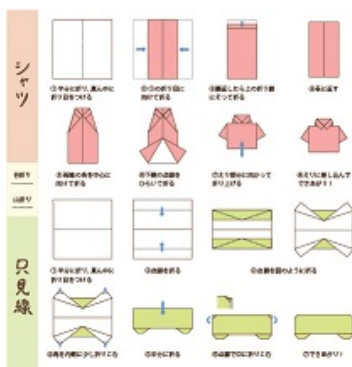
●駅中貼り広告・中吊り広告・窓上広告

県から依頼があった交通広告を春、夏、秋、冬に分け四つ制作した。工夫した点としてはすべて手書き風にし、ほかの広告との差別化を図るとともに、奥会津ののどかな雰囲気表現した。季節ごとに奥会津の良さが伝わるようにして、多くの人の目にとまったことで奥会津が認知されたと思う。



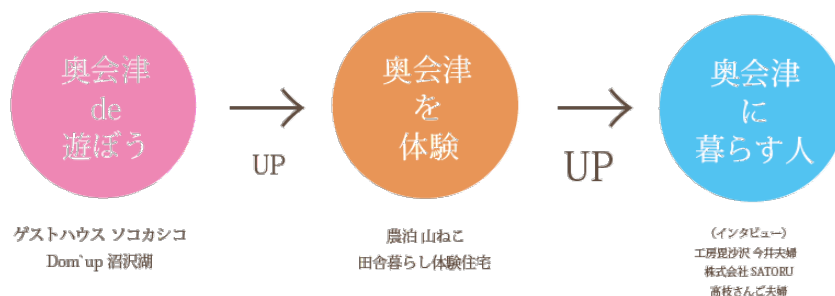
●奥会津おりがみ

若年層はSNSを活用する場面が多い。SNS にアップすることによってより広く認知される。折り紙というツールにしたのは、老若男女に受け入れられると考えたためである。



●知りたい住みたい奥会津ライフ(パンフレット)

移住者というキーワードの元制作したパンフレットは、奥会津に移住する時に役立つ内容に仕上げた。遊ぶ⇒体験する⇒暮らす(インタビュー)の流れにすることにより、わかりやすく、自然に移住にと話題がいくような内容になっている。全体のデザインの雰囲気としては、20代～40代の若年層に好かれるようなすっきりとしたデザインに仕上げた。





工房昆沙汰 今井さん夫婦

《工房毘沙沢とは？》

旦那さんの今井さんは一級建築士の資格を持っています。千葉県に住んでいましたが、木工をやるためにここに移住を決めました。穏やかなお二人とぬくもりのある木の空間が暖かく迎えてくれました。



問い合わせ先
〒068-0607 福島県南会津郡只見町大字布沢字鹿沙沢 2153
Tel.0241-86-2043



きっかけは？

自分がここに移住したきっかけは木工をやったからですね。木工は木を使って家具などの木製品を作ります。大昔時代には縄文の一環で木工を行っていたが、興味を持っていくのでますます行動に際すまいに決した。いろいろな割合で木工をして場所を探索するのは大変なことです。まず、木をしようと思うとかなりの場所が必要になります。木を保管する場所もそうだし、木を加工する道具もかなり大きいんです。それに加工すると匂いがきついですし、汚れてしまいます。木工用の住宅を築いてみると見つけたのが、只見町のこの空き家だったんです。

では移住の予定はなかったんですか？

最初の目的で言えばそうですね。ここは土地も十分にありまして、昔も汚れも気にする必要がなかったのでもうとめめめに脱糞したいと思ってきたのだともときどき思いますが、250年くらいだつたので改修しないという気持ちに勝つてきた。昔の家っていうのはうす木造だったので、家の要所は桧皮でもとせられない状態でした。でも、その他の大部分の体は新しくしないといけないんですけどね。そのため6年間かな、しばらくは千葉県にある自宅からうらつて改修作業をしていました。自分が建築士だったのもあったんですが、ほとんどを自分で分けてもらつてうらつて愛着を湧かせてもらって、現在は建築士にもなっています。

奥会津の魅力とは？

僕は新しいことを始めるのにはとても最適なところだと考えています。場所をとってなおかつ音が気になるということをするにはもってこいです。僕はそれが木工でしたが、例えば音楽、楽器や歌など、いろいろ試しても怒られません。ちなみに僕はホルンを嗜んでいます。楽器仲間が来てと心行くまで演奏することができよう。工阿尼沙沢が山の中にあるという事でもありますが。



考察

取材を通して奥会津の現状を知るとともに、分析することによって根本的な問題を明確にすることができた。その問題を自分たちで解決するために行動できたことが一番の成果だと思う。駅広告や折り紙においては、広い範囲に頒布し、さまざまな人の目に留まることによって奥会津という場所を認知させることができたのではないだろうか。また、パンフレットでは移住者の実際の声を聞いたことによって、より具体的な内容に仕上がった。移住者の方々に、このパンフレットを役立ててもらえたらと思う。